

近畿地方交通審議会  
近畿船員部会議事録

第213回

令和8年6月25日

日 時 令和 8 年 6 月 2 5 日（木） 1 6 時 0 0 分から

場 所 近畿運輸局 会議室（船員部会室）

出席者 公益 委員 横見委員、定岡委員（欠席）、三輪委員、  
安達委員（W E B）

労働者委員 山崎委員、佐藤委員（W E B）、小林委員（欠席）

使用者委員 磯合委員、土屋委員、開委員（欠席）

運 輸 局 寺地海事振興部長、山口海事振興部次長、  
田中船員労政課長、大崎船員労政課専門官、  
安井船員労働環境・海技資格課長

議題 1 . 管内の雇用等の状況について

議題 2 . その他

## 議 事 概 要

横見部会長：

それでは、ただ今から第２１３回近畿船員部会を開催いたします。

あらかじめお配りしております「第２１２回船員部会」の議事録につきまして、ご承認をお願いしたいと思います。ご異議ございませんか。

(異議なし)

横見部会長：

無いようですので、ご承認をいただいたものとして取り扱わせていただきます。

それでは議題に移ります。

最初に、議題１の「管内の雇用等の状況」について、運輸局からご説明をお願いいたします。

田中船員労政課長：

それでは「令和８年５月分管内雇用状況」につきまして、ご説明させていただきます。

### １．職業紹介状況

#### ①求人関係

新規求人数は、５４人（前月比－６人、１０．０％の減、前年同月比：－３３人、３７．９％の減）となっています。

月間有効求人数は、１６２人（前月比＋９人、５．９％の増、前年同月比：－２３人、１２．４％の減）となっています。

#### ②求職関係

新規求職者数は6人（前月比－4人、40.0％の減、前年同月比：－5人、45.5％の減）となっています。

月間有効求職者数は35人（前月比－5人、12.5％の減、前年同月比－5人、12.5％の減）となっています。

### ③成立状況

当月の成立数は、1人（前月比：－7人、87.5％の減、前年同月比－4人、80.0％の減）となっています。

## 2. 新規求人・求職者の取扱実績

### ①職種別内訳

新規求人の職種別内訳は、職員49人（甲板部30人、機関部19人、無線部0人、事務部0人）、部員5人（甲板部4人、機関部1人、無線部0人、事務部0人）となっています。

新規求職の職種別内訳は、職員4人（甲板部2人、機関部2人、無線部0人、事務部0人）、部員2人（甲板部0人、機関部1人、無線部0人、事務部1人）となっています。

### ②新規求職者の退職理由

内訳は、船舶所有者の都合が1人、定年退職0人、雇用期間満了0人、本人の申し出3人、自己の健康0人、倒産0人、就労中0人、不明2人となっています。

### ③新規求職者の年齢別

30歳未満1人、30歳代3人、40歳代1人、50歳代0人、60歳以上1人となっています。50歳以上は1人で占める割合は16.7％、30歳未満の占める割合は16.7％です。

## 3. 失業等給付金支給状況

当月末の受給資格者数は20人で、基本手当の支払実人数は5人、給付件数は5件となっています。給付金額は921,915円です。前月は1人、給付件数は1件、給付金額は213,444円でした。

それから、高年齢求職者給付金が0件、0円、再就職手当が2件、1,323,315円、就業促進定着手当が0件、0円、その他が0件、0円。よって、当月支給額計は、2,245,230円となります。

#### 4. 月間有効求人倍率の推移

5月の近畿船員は4.63倍で、前月比+0.8ポイント、前年同月比、増減なしとなっています。

#### 5. 近畿運輸局、月間有効求人・求職状況

①月間有効求人は162人で、このうち、新規求人者数は54人となっています。

当局の紹介による求人側の成立は0人、他局成立は0人でございました。

求人の取り消しは57人で、理由の内訳は有効期限切れ56人、自己応募・縁故により採用0人、会社都合により取り下げ1人、その他は0人となっています。

②月間有効求職者は35人で、前月との差は-5人でした。

当局の紹介による求職側の成立は0人、他局成立は1人でした。

求職の取り消しは12人で、理由の内訳は期限切れ10人、自己応募・縁故により採用1人、自己都合により取り下げ1人、その他0人となっています。

#### 6. 全国運輸局別の有効求人、有効求職、成立数、有効求人倍率

①4月の全国の月間有効求人数は、3,279人で、前月比18人増の100.6%、前年同月比204人増の106.6%となっています。

②4月の全国の月間有効求職数は、696人で、前月比48人増の1107.4%、前年同月比10人増の101.5%となっています。

③ 4月の全国の成立数は42人で、前月比3人増の107.7%、前年同月比2人減の95.5%となっています。

④ 4月の全国船員の有効求人倍率は季節調整値により5.10倍となっています。全国陸上は季節調整値により1.18倍となっています。以上が管内の雇用等の状況でございます。

横見部会長：

ありがとうございます。

事務局からの説明について質問等ございますか。

三輪委員：

資料2の最終ページの他局成立の行について、求職者側は貨物船を希望していますが、結果はアスファルト船での成立となっています。海のハローワークにおいて、求職者側は、希望する船種で探されるのが多いのか、それとも何か別の要素があって、貨物船ではなくアスファルト船を選んだということなのでしょうか。

田中船員労務課長：

求職者側は、船種や職種について第2希望まで選ぶことができ、そのほかに備考欄に希望する船種を明記して求職票を出すことは可能になっていますので、求人側が、第1希望は貨物船になっているけれど、アスファルト船でも一度声をかけてみようということで、結果成立することもございます。

横見部会長：

貨物船とアスファルト船で、船員の求められる技能はかなり違うものなのではないでしょうか。

磯合委員：

船員が荷役に参加するかどうかで大きく異なります。貨物船では荷役に参加することはほぼありませんが、アスファルト船はアスファルトを温める荷

役用のボイラーがありまして、船型によっては船員全員が荷役に参加する可能性があります。荷役の有無によって給料にも影響があると思います。

土屋委員：

求人側、アスファルト船の会社が貨物船希望の求職者を取るというケースもあります。船員が足りないので、手あたり次第声をかけている会社もあります。

横見部会長：

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

山崎委員：

2点質問がございます。1点目は資料1の「月間有効求人倍率の推移」の資料で、近畿船員のグラフが令和7年5月から9月あたりに倍率が跳ね上がっている部分があるのですが、これは何か事情があったのでしょうか。

他地域で、求人票の有効期間の切れ目のところで求人が集中して求人倍率が上がったというところがあったのですが、この部分も同様の理由なのか、それとも実態値に近い数字なのか教えていただきたい。

2点目が、資料2の月間有効求人・求職状況の3枚目になりますけれども、上から8行目のタンカーで、備考に「危険物の未承認でも可」と書かれているのですが、この意味が分からないので教えていただきたい。以上になります。

田中船員労政課長：

1点目についてですが、今、手元に当時の求人者数や求職者数のデータがありませんので、確認のうえ、来月にご報告させていただけたらと思います。

2点目の「危険物未認証でも可」につきましても、求人票の内容を確認してみないとどういう意味なのか分かりませんので、こちらの方も来月報告させていただければと思います。

横見部会長：

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

無いようですので、次に議題２の「その他」に入ります。

運輸局の方から説明をお願いします。

山口海事振興部次長：

資料４を説明申し上げます。

まず、令和８年４月分の内航海運の輸送動向調査の概要ですが、貨物船と油送船を合計した輸送量は前年同月比９８％となっております。

貨物船は、燃料、雑貨、自動車は増加。原料、紙・パルプ、セメントは減少。

油送船は、白油は増加、耐腐食は前年同月水準となる一方で、黒油、ケミカル、高圧液化、高温液体は減少。

４月の貨物船の輸送量は、前年同月比１０２％、前月比で９２％となっております。

鉄鋼は１０３％、一部メーカーでの高炉火災の影響による他地域からの代替輸送が発生しているとのことです。

原料は９６％、石灰石、金属鉱、非金属鉱等の減少により前年同月水準を割り込んだとされております。

燃料は１２０％、前年同月は一部の石炭火力発電所でトラブルが発生したほか、港湾ストの影響もあり減少。今月はそのようなトラブル等はなく反動増となっております。

紙・パルプは８６％、紙、パルプ、木材に減少が見られ低調に推移しております。

雑貨は１０５％、中東情勢の影響により、石油化学製品の基礎原料のナフサの調達に対する先行き不透明感が高まる中、確保可能なうちに在庫を積み増す動きも見られ、特需的な荷動きが発生しております。

自動車は１０８％、前年同月に見られたような港湾ストの影響はなく、さらに販売の回復もあり増加で推移しております。

セメントは９１％、輸送は低水準で推移しております。

続きまして、油送船の輸送量ですが、前年同月比９４％で、前月比９８％となっています。

黒油は８１％、製油所定修の影響による長距離航海の増加が見られた一方、中東情勢の影響によりボンドバンカーの減少が発生しております。

白油は１０１％、中東情勢の影響により、商社が扱う白油は低調に推移したものの、製油所間の転送需要が増加したことから、前年同月比・前月比ともに微増となったとのことです。

ケミカルは８４％、一部では中東情勢の影響も見られたとのことです、メーカーが以前から計画していたコンビナート設備の稼働率低下に伴う減産の影響が大きかったとされております。

高圧液化は８４％、ＬＰＧ、液体アンモニア、エチレン、塩ビモノマーに減少が見られております。

高温液体は８７％、引き続き、その他の高温液体や硫黄は増加となった一方で、アスファルトは減少で推移した結果、高温液体全体では減少となっております。

耐腐食は１００％、苛性ソーダには増加が見られた一方で、硫酸、その他の腐食性液体は減少で推移した結果、耐腐食全体で前年同月水準となっております。

それでは次に、貨物ごとの状況です。

|             |            |     |        |
|-------------|------------|-----|--------|
| 鉄鋼の前年比は、    | １０３．３％で、   | 前月比 | ９０．１％  |
| 原料の前年比は、    | ９６．０％で、    | 前月比 | ９６．７％  |
| 燃料の前年比は、    | １２０．５％で、   | 前月比 | ８９．４％  |
| 紙・パルプの前年比は、 | ８６．３％で、    | 前月比 | ８１．８％  |
| 雑貨の前年比は、    | １０４．８％で、   | 前月比 | １０１．４％ |
| 自動車の前年比は、   | １０８．２％で、   | 前月比 | ８４．３％  |
| セメントの前年比は、  | ９０．６％で、    | 前月比 | ９５．９％  |
| 貨物船全体の輸送量は、 | １６１５万６千トンで |     |        |

前年比が、１０２．３％で、前月比 ９２．０％となっています。

黒油の前年比は、 ８０．７％で、前月比 ８８．９％

白油の前年比は、 １００．８％で、前月比 １０１．３％

ケミカルの前年比は、 ８３．８％で、前月比 ９９．７％

一般タンカーの輸送量は、６７５万トンで

前年比が、９４．１％、前月比 ９８．２％となっています。

続きまして、

高圧液化の前年比は、 ８４．３％で、前月比 ９３．８％

高温液体の前年比は、 ８７．３％で、前月比 ８８．５％

耐腐食の前年比は、 ９９．８％で、前月比 ９９．０％

特タン船の輸送量は、 ９４万１千トン、

前年比が、９０．５％で、前月比 ９５．５％となっており、

全てのタンカーの合計は、７６９万１千トン、

前年比が、９３．６％で、前月比 ９７．８％となっています。

次に資料５、令和８年４月における長距離フェリーの輸送実績でございます。

まずは「トラック」ですが、

北海道方面では、１１，１９７台となっており、前月比が９９．７％、前年比１０３．６％

北九州方面では、３４，１４３台となっており、前月比が１０１．０％、前年比１０７．９％

中九州方面では、１２，０２０台となっており、前月比が９６．７％、前年比１００．２％

南九州方面では、１３，３４６台となっており、前月比が１０３．１％、前年比１００．１％となっています。

次のページの「旅客」では、

北海道方面では、

10,464人となっており、前月比が94.4%、前年比104.2%

北九州方面では、

81,467人となっており、前月比が79.2%、前年比104.6%

中九州方面では、

37,517人となっており、前月比が73.6%、前年比98.2%

南九州方面では、

29,599人となっており、前月比が86.4%、前年比106.8%となっています。

最後に、次のページの「乗用車」では、

北海道方面では、

4,328台となっており、前月比が101.8%、前年比98.7%

北九州方面では、

28,200台となっており、前月比が92.4%、前年比105.5%

中九州方面では、

6,225台となっており、前月比が85.6%、前年比106.5%

南九州方面では、

8,870台となっており、前月比が100.4%、前年比107.9%となっています。

説明は以上となります。

〔安井船員労働環境・海技資格課長より「快適な海上労働環境の形成のために船舶所有者が講ずべき措置に関する指針の制定について（事務連絡）」について説明〕

横見部会長：

ありがとうございました。

それでは、これまでの説明について質問等ございますか。

横見部会長：

特にないでしょうか。

横見部会長：

それでは次に、船員政策や船員労働全般に関わる様々な問題につきまして、ご意見や情報などございましたらご発言をお願いいたします。

では、まず労働者委員のほうから、いかがでしょうか。

山崎委員：

今月、南海フェリーを使った体験乗船をさせていただきました。

小学校3校と中学校1校の児童116名に、南海フェリーのフェリーあいに乗船いただき、ロープワークや船橋、ブリッジ見学等を班別に分けて実施をしました。大変、生徒たちからの盛況を受けまして、楽しかったという声をいただいております。

ただ、報道であったとおり、南海フェリーさんが、令和10年3月末で撤退というのが親会社からの発表が出てきているところでございまして、我々としては、航路存続を当然願っておりますし、あそこの航路については残していきたいなというところがありますけれども、今、会社との協議真っ最中というところがございます。

以上です。

横見部会長：

ありがとうございます。

前回、公益委員をお誘いいただいておりますが、ちょっと我々、皆さん全員先約があつて、大変申し訳ありませんでした。

私と定岡委員は去年参加させていただきました。本当に船員さんの裾野を広げる取組として、本当に実際に目で見て非常によく理解することができました。子供たちも、クイズがあつたりロープワークだったり、いろいろアクティビティーが船内で用意されていて、最後、終わった後、本当にみんな楽

しそうな表情を浮かべていて、何かもうみんな船員になりたいんじゃないかと思うぐらいとてもすばらしい取組だったという印象を持っています。

今回も、残念ながら予定が合わなかった皆さんも、ぜひまた次回ご参加をご検討いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

ほか、佐藤委員から何かございますか。

佐藤委員：

南海フェリーの航路維持というところで、今、和歌山県議会のほうで、知事の考え方を伺って、この和歌山徳島航路の維持存続について議論がなされております。

和歌山県のほうも、この航路は重要だというところで、残せるような施策を国のほうに重点要望事項というところでこの南海フェリーの維持存続を掲げております。

中央のほうで何か動きがあるのかないかちょっと分かりませんが、やはりこの管轄の近畿運輸局のほうからも、しっかりその辺、サポートといいますかバックアップといいますか、この維持存続、航路の必要性を、地方からしっかり上げていただきたいなというふうに考えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上になります。

横見部会長：

ありがとうございます。ほか、使用者委員のほうから何かございますか。  
続いて、公益委員のほうから何かございますか。

横見部会長：

事務局のほうからはいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日の部会は終了いたします。

次回の開催は7月23日（木）16時30分となります。

皆様よろしくお願いいたします。

(配付資料)

資料１．令和８年５月分 近畿運輸局管内船員職業紹介実績表

資料２．令和８年５月分 月間有効求人・求職状況（近畿管内）

資料３．令和８年５月分 局別月間有効求人数（商漁船・職部員別）等

資料４．内航輸送実績状況（令和８年４月分まで）

資料５．長距離フェリー輸送実績の推移（令和８年４月まで）

参考資料．快適な海上労働環境の形成のために船舶所有者が講ずべき措置に関する指針  
の制定について（事務連絡）